

九州病害虫研究会 第90回研究発表会 プログラム

共催 日本植物病理学会九州部会
日本応用動物昆虫学会九州支部

2015年11月11日(水)

会場 ホテルセントヒル長崎

〒850-0052 長崎市筑後町 4番10号

TEL: 095-822-2251

発表会場および進行予定

虫害 講演15分(1鈴10分、2鈴12分) 質疑3分(終鈴15分)

病害 講演10分(1鈴8分、2鈴10分) 質疑2分(終鈴12分)

	虫害会場 (3F 紫陽花の間)		病害会場 (2F 妙見の間)
9:00-11:30	No. 1~10	9:00-11:50	No. 1~10 ビデオワークショップ
日本応用動物昆虫学九州支部総会 13:00~13:30 (紫陽花の間)			
13:30-16:15	特別講演 No. 11~17	13:00-16:50	特別講演 No. 11~24

九州病害虫研究会

(The Association for Plant Protection of Kyushu)

<http://9byochu.sakura.ne.jp/main.html>

【講演にあたっての注意事項・その他】

- ・講演は Windows Microsoft PowerPoint 2000 以上で作成したスライドを液晶プロジェクターで投影しながら行って頂きます。(パソコンは、予め会場に設置したものを用います。ご自身のパソコンは接続できませんのでご注意ください。)
- ・講演ファイルは必ず CD-ROM に書き込んでお持ち下さい。USB メモリは使用できませんのでご注意ください。
- ・ファイルの入った CD-ROM は、午前・午後の開始前までに会場係に直接届け、作動の可否をご確認下さい。発表用パソコンへのインストールは、病害・虫害各会場係が行います。
- ・ファイル名は、講演番号(半角 2 ケタ) + 発表者氏名(例「03 九州太郎」)としてください。
- ・虫害部会は、発表終了者に次の発表の座長を担当していただきます。ただし、午前、午後の最初の発表については事務局で対応します。
- ・講演要旨は、本会ホームページ内に掲載しております。印刷してご持参下さい。

【九州病虫害研究会第 91 回春季研究発表会の開催お知らせ】

第 91 回春季研究発表会を下記のとおり開催します。

記

1. 日時 2016 年 2 月 4 日(木) 9:00~17:00 (終了予定時間)
2. 会場 菊南温泉ユウベルホテル
〒861-5517 熊本県熊本市北区鶴羽田 3 丁目 1 0 - 1
(TEL) 096-344-5600
会場ホームページ (<http://kikunan-ublhotel.jp/>)

詳細については後日、当会ホームページにて掲載いたします。

病害の部

会場：2F 妙見の間

講演 10 分（1 鈴 8 分、2 鈴 10 分） 質疑 2 分（終鈴 12 分）

8:55		開会挨拶
座長：岩井 久（鹿児島大農）		
1	9:00	罹病スイセンから得られたカブモザイクウイルス分子系統グループの新種ウイルス様配列 ○三苦真一郎・野見山玲衣・大島一里（佐賀大農）
2	9:12	タイ王国におけるカブモザイクウイルスの生物学的・遺伝学的性質 ○八坂亮祐 ^{1,2)} ・Maneechoat P. ³⁾ ・Chiemsoombat P. ⁴⁾ ・竹下稔 ⁵⁾ ・大島一里 ^{1,2)} （ ¹⁾ 佐賀大農・ ²⁾ 鹿児島大院連農・ ³⁾ タイ農業協同組合省・ ⁴⁾ カセサート大学・ ⁵⁾ 宮崎大農）
3	9:24	One Step RT-PCR によるランキュラス微斑モザイクウイルスの簡易遺伝子診断 ○細川秀子 ¹⁾ ・宮丸智成 ²⁾ ・早日早貴 ³⁾ ・菅野善明 ²⁾ （ ¹⁾ 南九大院園芸・ ²⁾ 南九大環境園芸・ ³⁾ 宮崎総農試）
座長：吉田政博（東海大農）		
4	9:36	ツルマメに発生する細菌病の探索 ○入江沙織 ¹⁾ ・古屋成人 ¹⁾ ・松岡 健 ¹⁾ ・大貫正俊 ²⁾ ・佐藤豊三 ³⁾ ・黒瀬大介 ⁴⁾ （ ¹⁾ 九大院農・ ²⁾ 九州沖縄農研・ ³⁾ 生物研・ ⁴⁾ CABI Europe-UK）
5	9:48	抉芽苗に対する非病原性 <i>Ralstonia solanacearum</i> の接種によるジャガイモ青枯病の発病抑制 ○黒木達也 ¹⁾ ・森 太郎 ²⁾ ・中原浩貴 ¹⁾ ・松崎弘美 ¹⁾ ・松添直隆 ¹⁾ （ ¹⁾ 熊本県大院環境共生・ ²⁾ 滋賀大教育）
6	10:00	非病原性 <i>Ralstonia solanacearum</i> によるナス半身萎凋病の生物的防除 ○前原祥大 ¹⁾ ・中原浩貴 ²⁾ ・森 太郎 ³⁾ ・松崎弘美 ²⁾ ・松添直隆 ²⁾ （ ¹⁾ 熊本県大環境共生・ ²⁾ 熊本県大院環境共生・ ³⁾ 滋賀大教育）
7	10:12	非病原性青枯病菌の培養ろ液における病原性株の増殖抑制 ○中原浩貴 ¹⁾ ・森 太郎 ²⁾ ・松崎弘美 ¹⁾ ・松添直隆 ¹⁾ （ ¹⁾ 熊本県大院環境共生・ ²⁾ 滋賀大教育）
座長：大城 篤（沖縄農研セ）		
8	10:24	宮崎県で発生したサトイモ疫病菌の 2,3 の性状 ○宮路寛輝 ¹⁾ ・北代晃浩 ¹⁾ ・菅野善明 ¹⁾ ・川信修治 ¹⁾ ・寺原亮治 ²⁾ （ ¹⁾ 南九大環園・ ²⁾ 宮崎総農試畑作）
9	10:36	ソラマメ炭疽病を引き起こす <i>Colletotrichum gloeosporioides</i> 種複合体菌株の再同定 ○鬼束耕治 ¹⁾ ・中村正幸 ¹⁾ ・樋口康一 ²⁾ ・野島秀伸 ³⁾ ・佐藤豊三 ⁴⁾ ・岩井 久 ¹⁾ （ ¹⁾ 鹿児島大農・ ²⁾ 鹿児島農総セ・ ³⁾ 鹿児島大島特殊病害虫・ ⁴⁾ 生物研）

- 10 10:48 タマネギ乾腐病対策としてのセル成型トレイへの各種殺菌剤灌注処理効果のメタアナリシスと経済性
○正司和之¹⁾・善正二郎²⁾・稲田稔²⁾・松尾洋一¹⁾・田代暢哉¹⁾
(¹⁾佐賀上場営農セ・²⁾佐賀農技防)

ビデオワークショップ

講演 40 分, 討論 10 分

座長: 田代暢哉 (佐賀上場営農セ)

- 11:00 薬剤スクリーニングから圃場試験まで一糸状菌および細菌—
松崎正文氏 (日本農薬)

<休憩> 11:50~13:00

特別講演

講演 40 分, 討論 10 分

座長: 宮坂 篤 (九州沖縄農研)

- 13:00 農業分野におけるドローン (無人航空機) の利活用について
深見公一郎氏 (九州沖縄農研)

<休憩> 13:50~14:00

座長: 櫛間義幸 (宮崎総農試)

- 11 14:00 次亜塩素酸水のイチゴ炭疽病菌に対する殺菌効果
○森脇文治¹⁾・平山喜彦²⁾・高山智光¹⁾・渡辺慎一¹⁾・松尾征徳¹⁾・
橋本好弘³⁾ (¹⁾九州沖縄農研・²⁾奈良農研セ・³⁾サカタのタネ)
- 12 14:12 温水点滴処理によるハウスビワの白紋羽病罹病樹に対する治療効果
○古賀敬一¹⁾・内川敬介²⁾・中村 仁³⁾ (¹⁾長崎農林部・²⁾長崎農技セ
果樹茶・³⁾果樹研)
- 13 14:24 ハウスミカンすす斑病に対する Evidence-based Control (EBC)の実践
○田代暢哉¹⁾・山口尚司²⁾・中島幸一²⁾・正司和之¹⁾・松尾洋一¹⁾・
山口正洋³⁾ (¹⁾佐賀上場営農セ・²⁾JA からつ上場みかん選果場・
³⁾東松浦農業改良普及セ)
- 14 14:36 キャプタン剤のオクラの3種苗立枯性病害に対する防除効果
○大城 篤¹⁾・安次富厚¹⁾・山城麻紀¹⁾・澤岷哲也²⁾・新崎千江美³⁾
(¹⁾沖縄農研セ・²⁾沖縄農研セ名護・³⁾宮古農林水産振興セ)

座長: 菅野善明 (南九大環境園芸)

- 15 14:48 UV-B 照射によるトマトでのウイルス病抵抗性の誘導について
○竹下 稔¹⁾・松浦昌平²⁾・佐藤 衛³⁾ (¹⁾宮大農・²⁾広島総研農技セ・
³⁾花き研)
- 16 15:00 農業生物資源ジーンバンクに保存されているインゲンマメ南部モザイクウイルスの外被タンパク質遺伝子配列に基づく種の再考
○大貫正俊・酒井淳一・笹谷孝英 (九州沖縄農研)
- 17 15:12 残さ分解によるピーマンのトウガラシ微斑ウイルス (PMMoV) 土壌伝染防止効果の検討
○早日早貴¹⁾・櫛間義幸¹⁾・黒木修一²⁾・寺本 敏¹⁾ (¹⁾宮崎総農試・
²⁾宮崎県営農支援課)

18	15:24	静岡県におけるメロン退緑黄化病の発生状況と雑草からのウイルスの検出 ○影山智津子 ¹⁾ ・土井 誠 ¹⁾ ・芳賀 一 ²⁾ ・松野和夫 ³⁾ ・古木孝典 ^{4),現²⁾} (¹⁾ 静岡農林研・ ²⁾ 静岡病害虫防除・ ³⁾ 西部農林・ ⁴⁾ 中遠農林)
座長：尾松直志（鹿児島農開発総セ）		
19	15:36	スベリヒユ, イヌタデおよびセイヨウタンポポに発生した白絹病（新称） ○森田 昭
20	15:48	<i>Diaporthe pseudophoenicicola</i> および <i>Neofusicoccum parvum</i> によるマンゴー軸腐病（病原追加） ○澤岬哲也 ¹⁾ ・新崎千江美 ²⁾ ・安次富厚 ³⁾ ・大城 篤 ³⁾ （ ¹⁾ 沖縄農研セ名護・ ²⁾ 宮古農水振興セ・ ³⁾ 沖縄農研セ）
21	16:00	パインアップル小果腐敗病菌の感染時期 ○新崎千江美 ¹⁾ ・澤岬哲也 ²⁾ ・大城 篤 ³⁾ ・竹内誠人 ²⁾ ・諸見里知絵 ²⁾ (¹⁾ 宮古農水振興セ・ ²⁾ 沖縄農研セ名護・ ³⁾ 沖縄農研セ)
座長：塩谷 浩（果樹研口之津）		
22	16:12	ダイレクト PCR によるサトウキビ黒穂病菌の簡易検出法 ○田中 穰 ¹⁾ ・尾川宜広 ²⁾ ・下地 格 ³⁾ ・境垣内岳雄 ¹⁾ ・服部太一朗 ¹⁾ ・早野美智子 ¹⁾ ・樽本祐助 ¹⁾ （ ¹⁾ 九州沖縄農研・ ²⁾ 鹿児島農開発総セ大島・ ³⁾ 沖縄農研）
23	16:24	2015 年春夏季におけるキウイフルーツ葉からの <i>Pseudomonas syringae</i> pv. <i>actinidiae</i> (biobar3) の検出 ○野口真弓・白石祥子・口木文孝（佐賀果樹試）
24	16:36	キウイフルーツ苗木におけるかいよう病菌(biobar3)の樹体内移動 ○篠崎 毅・青野光男・楠元智子・清水伸一（愛媛果研セ）
	16:48	閉会挨拶

虫害の部

会場：3F 紫陽花の間

講演 15分 (1 鈴 10分、2 鈴 12分) 質疑 3分 (終鈴 15分)

- 1 9:00 長崎県におけるイチゴのナミハダニに対する各種薬剤の殺卵効果
○藤 友加里・大山知泰¹⁾・平山千穂・北島有美子 (長崎防除所・
¹⁾長崎県杵岐振興局)
- 2 9:15 佐賀県内の施設栽培カンキツ園から採集したミカンハダニの各種殺ダ
ニ剤に対する感受性
○白石祥子・口木文孝・野口真弓 (佐賀果樹試)
- 3 9:30 宮崎県の施設果菜類に発生するミナミキイロアザミウマおよびヒラズ
ハナアザミウマの薬剤感受性
○松浦 明・日高春美 (宮崎総農試)
- 4 9:45 サンクリスタル乳剤の各種薬剤への加用がミカンキイロアザミウマの
殺虫効果に及ぼす影響
○林川修二・牧 昭仁¹⁾・二川裕一 (鹿児島農総セ・¹⁾南薩地域振興局)
- 5 10:00 沖縄県におけるチャノキイロアザミウマC系統及びYT系統の分布と発生
推移
○守屋伸生・金城聖良¹⁾・金城邦夫・喜久村智子・貴島圭介・
土田 聡²⁾ (沖縄農研セ・¹⁾沖縄防除セ・²⁾果樹研)
- 6 10:15 TuMV 発生圃場およびその周辺におけるアブラナ科植物寄生性アブラ
ムシの季節消長
○本間智己・安達修平¹⁾・八坂亮祐¹⁾・大島一里・徳田 誠
(佐賀大農・¹⁾鹿児島大院・連合農学)
- 7 10:30 ジャガイモヒゲナガアブラムシに対する寄生性天敵ギフアブラバチの
バンカー法
○柿元一樹・松比良邦彦・井上栄明・太田 泉¹⁾・武田光能¹⁾ (鹿児島
農総セ・¹⁾野菜茶研)
- 8 10:45 ナス科果菜類の促成栽培施設への天敵温存植物スカエボラの導入
○安部順一郎・世古智一 (近中四農研)
- 9 11:00 マサキタマバエ (ハエ目：タマバエ科) を寄主とする *Platygaster* sp.
(ハチ目：ハラビロクロバチ科) の寄主操作により生じた寄生蜂の種間関
係の変化
○藤井智久・松尾和典¹⁾・阿部芳久・湯川淳一²⁾・徳田 誠³⁾ (九大院
比文・¹⁾美馬市・²⁾九大・³⁾佐大農)
- 10 11:15 長崎県と北九州に侵入した特定外来生物ツマアカスズメバチについて
○上野高敏 (九州大農・生防研)
- 11:30 休憩
- 13:00 日本応用動物昆虫学九州支部総会

特別講演

講演 50 分, 討論 10 分

座長: 上野高敏 (九州大農・生防研)

- 13:30 コオイムシ科昆虫の父親による卵保護に関する行動生態学的研究
○大庭伸也 (長崎大教育)
- 11 14:30 水田における環境保全型農業が複数の生物群に及ぼす効果
○田中幸一・馬場友希・片山直樹・益子美由希・楠本良延・西田智子
(農環研)
- 12 14:45 ヒメトビウンカの生殖を操作する 2 種の内部共生細菌が宿主の発育と増殖に及ぼす影響
○吉田一貴・真田幸代¹⁾・徳田 誠 (佐賀大農・¹⁾九州沖縄農研)
- 13 15:00 トビイロウンカのイミダクロプリド抵抗性の遺伝様式
○真田幸代・松村正哉 (九州沖縄農研)
- 14 15:15 半数効果葉量 (ED50 値) を算出可能なピメトロジンに対するウンカ類の新感受性検定法
真田幸代・杉井信次¹⁾・辻本克彦¹⁾・○松村正哉 (九州沖縄農研・¹⁾シンジェンタジャパン株式会社)
- 15 15:30 佐賀県におけるチュウゴクナシキジラミの世代数
○口木文孝・白石祥子・井上広光¹⁾・川内孝太²⁾・野口真弓 (佐賀果樹試・¹⁾果樹研・²⁾佐賀杵藤農林事務所)
- 16 15:45 4 種作物上におけるスワルスキーカブリダニ個体群増殖の差異
柿元一樹・○松比良邦彦・井上栄明・伊藤由香¹⁾・大野和朗²⁾ (鹿児島農総セ・¹⁾鹿児島南薩振興局・²⁾宮崎大農)
- 17 16:00 サツマイモのネコブセンチュウに対する 4 種接触型粒剤の作条土壌混和での防除効果
○福田 健 (鹿児島農総セ大隅)